

## 歴史-2 <sup>わみょうるいじゅうしょう</sup> 倭名類聚抄

『倭名類聚抄』は、現存する我が国最古の分類別の辞典で、国語辞典のほか漢和辞典や百科事典の要素を含んでいるのが特徴です。中国の分類辞典の影響を受けており、平安時代中期の承平年間（931～938年）に、源順<sup>みなもとのしたごう</sup>によって編さん<sup>へん</sup>されました。当時から漢語の和訓を知るために重宝され、江戸時代におこった国学以降、平安時代以前の語彙・語音を知る資料として、また社会・風俗・制度などを知る史料として日本史や国文学などの世界で重要視されました。巻数は十巻または二十巻があり、二十巻本には古代の律令制における行政区画である国・郡・郷の名称を網羅しています。その中の日向国では臼杵・児湯・那珂・宮崎・諸島の五郡が確認でき、郡別に本田（田）数や租税も紹介されています。

